＜株式会社エフエム東京　第 488 回放送番組審議会＞

１．開催年月日：令和 4 年 5 月 10 日（火）

２．開催場所：エフエム東京 本社 11 階 JET STREAM 大会議室

３．委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名　社内 0 名）

◇出席委員（3 名）
ロバート キャンベル　委員長　　佐 々 木 俊 尚　委員
松　田　紀　子　委員

◇欠席委員（3 名）
秋　　元　　康　委員　　川 上 未 映 子　委員
山　口　真　由　委員

◇社側出席者（7 名）
唐　島　代表取締役会長
黒　坂　代表取締役社長
内　藤　執行役員編成制作局長
延　江　編成制作局ゼネラルプロデューサー
宮　野　編成制作局次長 兼 編成部長
若　杉　編成制作局制作部長
大　橋　編成制作局制作部プロデューサー

◇社側欠席者（1 名）
小　川　取締役

【事務担当　内藤放送番組審議会事務局長】

４．議題：番組試聴　（約 30 分）
『JFN Special Life Time Audio 2022 ～My First Music～「14 歳のプレイリスト」』
5 月 5 日（木）15：00～17：00　放送のダイジェスト

≪議事内容≫
議題 1:最近の活動について

■『村上 RADIO 緊急特番 戦争をやめさせるための音楽』ギャラクシー賞入賞

TOKYO FM をはじめとする JFN 全国 38 局ネットで 2022 年 3 月 18 日（金）23:00～放送した『村上 RADIO 緊急特番 戦争をやめさせるための音楽』が第 59 回ギャラクシー賞入賞となりました。応募作品 84 本のうち、入賞作品は 8 本あり、6 月 1 日（水）の表彰式にて、大賞・優秀賞（3 本）・選奨（4 本）が発表されます。

なお、これに加え 8 本の奨励賞が発表され、TOKYO FM からは、2021 年 4 月 29 日（木）に放送したリリー・フランキー氏が脚本を手掛けたラジオドラマ『「東京」 2021 春 サヤカとトモヤ ～君の牛、再び～』、2022 年 3 月 8 日（火）に放送したコロナ禍の歌舞伎町のホストたちを取材した『歌舞伎町のうた～ホストが詠んだ 2020-2022』が受賞しました。

■オンラインライブイベント JFN EARTHDAY SPECIAL『TO THE FUTURE From INI』4 月 17 日（日）開催

TOKYO FM では、レギュラー番組『From INI』（金曜深夜 25:00～27:00 JFN36 局ネット）の番組イベント JFN EARTHDAY SPECIAL『TO THE FUTURE From INI』を 4 月 17 日（日）にオンラインで開催しました。

出演は、番組パーソナリティもつとめるグローバルボーイズグループ INI、KEN THE 390、SKY-HI、さらに、INI とライバル関係にあるボーイズグループ BE:FIRST とは今回が初のイベント共演。配信視聴者数（チケット販売数）は 3 万枚を超え、大きな話題・反響となりました。

また、このイベントの一部は 4 月 22 日（金）のアースデーに 19:00～21:00 の特別番組として放送。イベントと特別番組内では、若者に向け、地球環境について啓発するトークを行いました。

▲INI によるステージ

▲BE:FIRST によるステージ

▲INI と BE:FIRST がステージでトーク

▲トークパートは環境について啓発する企画トーク

【委員の意見および社側説明】
（「○」委員意見／「■」社側意見）

○ギャラクシー賞の入賞は本当におめでとうございます。

議題２：番組試聴

【番組名】

『JFN Special Life Time Audio 2022 ～My First Music～「14 歳のプレイリスト」』

【番組概要】

本日ご試聴いただくのは、5 月 5 日（木）に放送した『JFN Special Life Time Audio 2022 ～My First Music～「14 歳のプレイリスト」』のダイジェストです。

TOKYO FM では、2020 年 4 月 26 日に開局 50 周年を迎え、新たなブランドプロミスとして、「Life Time Audio」＝“伝わる言葉と心に届く音楽で生活者の日々を豊かにするオーディオコンテンツを発信しながら、生活者の人生に寄り添い、生活者と共に心豊かな物語を紡いでいく存在でありたい” …を掲げ、人々の人生を豊かにするような、一生ものの音楽体験や音声コンテンツとの出会いの場を提供することを目的に、日々番組をお届けしております。

それを象徴する番組として、2018 年に『The New York Times』に掲載された「人は 14 歳の時に聴いた音楽でその後の音楽好みが形成される」という記事をヒントに、「14 歳の時に聴いていた（好きだった）音楽」をテーマに昨年からお届けしている特別番組です。

今回の特別番組では、生放送のパーソナリティを『SCHOOL OF LOCK!』のこもり校長とぺえ教頭がつとめ、リスナーにとっての 14 歳のプレイリストを募集し紹介しました。また、TOKYO FM でパーソナリティをつとめるリリー・フランキー氏、小島瑠璃子氏、サカナクション 山口一郎氏からも 14 歳のプレイリストについてのコメントが寄せられました。

さらに、番組の目玉として、矢沢永吉氏と福山雅治氏、2 人のトップアーティストによる対談をお届けしました。この 2 人の対談は史上初となります。福山氏がアーティスト・人生の先輩に質問をする形で、それぞれお互いを掘り下げていく展開となりました。radiko の 1 週間のタイムフリー終了後の 5 月 13 日（金）より、AuDee と TOKYO FM 公式 YouTube で、放送できなかったトークを含めた「ロングバージョン」を配信します。

◀矢沢氏×福山氏

【委員の意見および社側説明】
（「○」委員意見／「■」社側意見）

○昨年も放送していたこのシリーズはとても良いと思う。14 歳という子どもと大人の中間のような青春時代は誰もが経験していると思うので、その時期に心に響いた曲というのは、存在感がとても強い。今 40 代の人も 70 代の人も、14 歳という時期は必ずあった。その時に思い描いていたことが曲と一緒に語られるのは世代を超えた共通概念やノスタルジー、共感性、まだ何者でもなかった頃に戻れる、とても心温まる企画。

○今は、昔のようにお茶の間にテレビがあって、そこでみんなで同じ番組を見るという時代ではなく、それぞれが別のメディアに接し、曲も好みもバラバラだと思うけれど、14 歳という切り口でまとまっていくことができるのは、聴いていて安心感があった。「今の 17 歳が尾崎豊に惹かれる」ということにも驚きがあった。

○矢沢氏と福山氏のビック対談。これはかなり目玉だと思うが、その一方で 2 人の「14 歳の頃」の話をもう少し集中して聴きたかった。2 人は日本を代表するようなビッグスターで、雲の上の存在。リスナーにとっては、自分とビッグスターとの共通項はまるで見つからない。せっかく 14 歳という切り口で 2 人に来てもらったのであれば、中学生の矢沢氏が何を考えていたのか、福山氏の長崎時代がどうだったのか、という話があれば「こんな大スターにも 14 歳という時代があって、自分たちと同じように甘酸っぱいものがあったんだな」ということが分かち合え、更に印象に残ったのかと思う。

○この番組は「14 歳のプレイリスト」というタイトルだが、聴取層のターゲットも 14 歳近辺なのか？もし 14 歳をターゲットにしているなら、今の 14 歳は矢沢氏についてはそこまで知らないだろうと思う。ビッグであることは間違いないが、世代的には馴染みがないかと思う。

■テーマを 14 歳の頃と設定しているが、聴取層については全世代をターゲットとしている。番組には 60 代からもメールが来ていた。

○大変面白い番組だった。他にも、29 歳、33 歳など、何か人生の節目になるような年齢のプレイリストなども聴いてみたいと思った。仕事で行き詰まったり、結婚・出産だったり、人生の大きな転換やライフイベントが盛りだくさんの時期だと思うので、また別の意味で深みが出て、さらにシリーズとして積み重なっていくと思う。

○以前に読んだ記事で、アメリカかどこかの老人ホームで認知症の高齢者に思春

期の頃の音楽を聴かせたら症状が改善したという記事を読んだ。年をとっても 14 歳くらいの思春期の頃のことをどこか心に秘めているんだと思った。同時に、以前に比べて音楽の世代差がなくなってきているとも思う。友人の中学 1 年生の息子が、音楽好きで、今は竹下孝蔵の「初恋」を聴いていると言っていて大変驚いたことがある。サブスクリプションの普及で後押しされて、古い音楽も新しい音楽もシームレスになって時代感覚がどんどんなくなっているなと。昔は、年齢によって聴いている音楽が全然違っていた。昭和 13 年生まれの母親はジャズや軽音楽。大正・明治生まれの祖父母は演歌を飛び越して浪曲を聴いていた。年齢によって聴く音楽が明確に分かれていた。70 年代くらいから、ロックとポップスあらゆるものがだんだんミックスされるようになった結果、音楽の時代性というものがどんどん消滅しているのではと思う。サブスクリプションサービスを聴いていると、自分に「パーソナライズされたプレイリスト」というのが出てくる。その中に「あなたが 10 代の頃に聴いていたプレイリストをまとめました」というサービスがある。実際に聴いてみると、全く聴いていなかったものが入ってくる。恐らく、年齢に合わせて当時の楽曲を選曲しているのではなく、今聴いている音楽、例えば、今シティポップを聴いている人は若い頃こういうのを聴いていたんじゃないか？という高度な予測をしているはず。私が 10 代の頃はまだサブスクリプションサービスがなかったのでこのような結果になるが、今の 10 代の子たちはサブスクリプションサービスで聴いているので、50 年後に「あなたが 10 代の頃に聴いていたプレイリストをまとめました」とピンポイントで合わせることができるのではないかと思う。14 歳の懐かしさは、楽曲だけでなく、もう少し抽象的に感覚そのものを共有するようなことがいいのではと思う。
懐かしさや、14 歳という切り口、世代的なものなど、この番組はいろいろ考えさせられる非常に深いテーマだった。

○「プレイリスト」というタイトルだったが、実際はその人のプレイリストではなく、「推しの 1 曲」だったのは少し残念だった。14 歳の時のタイムカプセルを開いて、フワっと香りのように 14 歳の光景が表れるというのは、1 曲ではできないと思う。名を成した方のそれぞれの 1 曲を聴き合うことは悪いことではないが、深みに欠けたと思う。

○番組の中で「この曲を聴いたからプロポーズできました」とか「この曲でこの仕事に就いた」というメールに対し、パーソナイティが「そういうのはあるよね」って言っていたが、本当にあるのかなと。「この曲があるから今の私がいる」のようなフレームは、すごくメディア的な感じがして、言われた瞬間に閉じてしまう。そういう構文のようなものはぜひ揺らして欲しいと感じた。また、パーソナリティのトーンに熱を感じず、「これが好き」と言われても全然好きに聴こえなかった。聴いていてヒヤヒタした。

■ゴールデンウィーク中の休日の夕方に編成した番組で、車に乗って聴いている人もたくさんいる時間帯の放送ということもあり、あらゆる世代の人に、世代を超えた空気感で聴いてほしいという想いで制作した。みんなでその人の、音楽とその人の人生に寄り添ったエピソードが共有できればということを目指した。矢沢氏と福山氏の対談パートについてはもっと音楽的なことや 14 歳の頃の話をして頂こうと思っていたが、2 人初の対談ということもあり、お互いに聴きたいことがたくさんあった、という背景もあった。制作側がもう少しテーマに沿うよう軌道を変えていくべきだったのは反省点でもある。

6.議事内容を以下の方法で公表した。

① 放送:番組「ドライバーズインフォ」

5 月 28 日（土）5:55～6:00 放送

② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 https://www.tfm.co.jp/